

**新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画策定委員会及び
新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会のスケジュールについて**

1 検討状況

施設基本計画策定委員会	施設・周辺整備協議会
3/26 第一回委員会 委員会のコンセプト他	3/30 視察 (広島・中清掃工場)
4/22 第二回委員会 ごみ処理の現状把握及び排出量の把握	4/19 第一回協議会 協議会のコンセプト他
5/13 第三回委員会 炉形式及び施設規模について 炉構成について 排ガス処理システムについて	5/8 タウンウォッチング
	5/17 第二回協議会 タウンウォッチング報告
6/16 第四回委員会 新施設の自主規制値について 排ガス処理システムについて 煙突高さについて	6/21 第三回協議会 施設・周辺整備事項の整理
6/28 第一回合同意見交換会	

2 今後の予定

施設基本計画策定委員会	合同勉強会	施設・周辺整備協議会
7 月 不燃・粗大施設についての基本仕様の検討		施設・周辺整備の検討
8 月 焼却施設のこれまでの議論の整理	白煙排出実験・煙突高さの研究・広報活動 (月 1 回)	施設・周辺整備の検討
9 月 生活環境影響調査計画の検討		施設・周辺整備の検討
10 月 配置・動線計画の検討		生活環境影響調査計画の検証
11 月 施設建設・運営維持管理計画		グランドデザインの検討
11 月	第二回合同意見交換会	
12 月	煙突からの白煙（水蒸気）排出の実証実験	
12 月 白煙排出実験の検証	白煙排出実験の検証	
1 月 白煙排出実験の検証 焼却処理のまとめ グランドデザインの検討	白煙排出実験の検証 新施設の運営協議会方式の検討	
1 月	第三回合同意見交換会	
2 月 施設基本計画（案）のまとめ	施設・周辺整備の素案のまとめ	
3 月		

合同勉強会について(提案)

【目的】

基本計画策定委員会と施設・周辺整備協議会の共通課題である、「白煙防止装置の有無」「煙突の高さ」「生活環境影響調査」などについて、合同で研究する。

【構成】

基本計画策定委員会、施設・周辺整備協議会の双方の委員によって構成。出席は任意。

【日程】

(第一回) 8月4日(水) 19時~21時頃

- ・ 白煙防止装置のシステムについて
- ・ 白煙排出確認実験の広報について
- ・ 煙突の高さが環境負荷および景観に与える影響について

(第二回) 9月上旬

- ・ 白煙排出確認実験の広報について(その2)
- ・ 煙突の高さについて(その1)
- ・ 生活環境影響調査について(その1)

(第三回) 10月上旬

- ・ 煙突の高さについて(その2)
- ・ 生活環境影響調査について(その2)

(第四回) 11月上旬

- ・ 白煙排出確認実験の説明会について

(第五回) 12月上旬

- ・ 白煙排出確認実験の住民アンケートについて

焼却施設の基本仕様について、委員会の決定事項及び継続検討事項の整理

決定事項

炉形式は、ストーカ炉で焼却灰はエコセメント化とする。

計画ごみ量は、平成 29 年度計画量 30,607 t / 年とする。

ごみ減量・資源化の取り組みの継続（H21 可燃ごみ搬入量 31,232.97t/年）

施設規模は、120 t / 日とする。

炉構成は、60 t / 日・炉の 2 炉構成とする。

計画ごみ質

項目	設計ごみ質		
	低質ごみ	基準ごみ	高質ごみ
現施設（低位発熱量）	3,767kJ/kg	6,279kJ/kg	10,046kJ/kg
新施設	6,000kJ/kg	9,300kJ/kg	13,500kJ/kg

ごみピット容量は、日処理量の 6 日分とする。

自主規制値

項目	単位	法規制値 ¹ (大気汚染防止法等)	新施設 自主規制値 (案)	現施設 自主規制値
ばいじん	g/m ³ _N	0.08以下 (焼却能力2~4t/h)	0.01以下	0.03以下
いおう酸化物(SO _x)	K値	1.17以下		
	ppm	(105程度)	10以下	30以下
窒素酸化物(NO _x)	ppm	250以下	50以下	150以下
塩化水素(HCl)	ppm	430以下 ²	10以下	25以下
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ _N	1以下 (焼却能力2~4t/h)	0.1以下	1以下

継続検討事項

排ガス処理方式については、以下の論点を軸に処理方法を決定していく。

現施設において、湿式洗煙装置を採用し、25年間、厳しい排ガス規制値をクリアしてきており信頼性は高い。一方、乾式処理においても、平成10年以降のダイオキシン問題からバグフィルター装置が採用され、バグフィルター装置とセットで排ガス処理において効果を上げ、さらにより効果がある新しい薬品（重曹）も開発された。また、25年が経過した中、地球温暖化が進み、CO₂削減が地球規模のテーマであり、ごみ処理施設においてもごみ発電が必須となっている中、発電効率の面で乾式は湿式と比べ、圧倒的に有利である。

煙突の高さについて、協議会との共通課題として、景観、煙突デザインを含め、今後、協議・検討していく。

煙突の白煙（水蒸気）排出については、協議会との共通課題として、排出実験の結果を踏まえ、決定していく。